

地域課題の現状把握についての アンケート調査

報告書

2023年9月

認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

はじめに

人口減少による公的サービスの縮小、地域コミュニティの脆弱化、コロナ禍を経てさらに深まりつつある孤立化など、地域社会には多種多様な課題が存在しています。認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸(以下、CS神戸)は、民設民営の中間支援として神戸市内5か所に常設の相談拠点を設け、コミュニティビジネスや NPO の創出・運営支援を行っています。立ち上げ時において特に重要なポイントは「地域課題の把握」であると考えています。

まず、誰がどんなことに困っているのか、どんな仕組みがあれば助かるのか、既存の公共サービスや民間サービスは使えないのか等、一人ひとりの生活上の困りごとに着目することが立脚点となります。そして、同じような困りごとを抱えた人はどれくらいいるのか、その課題を解決するための手法は何が考えられるのか、使える社会資源はどんなものがあるのか、といった手順で道筋を付けつつ、それぞれのテーマに関心のある市民の参加を得ながら、年間約50団体の立ち上げをサポートしてきました。

兵庫県補助事業として実施している「地域しごとサポートセンター神戸」事業において、2023年度に「地域課題および支援を要する個人・団体の調査・発掘・収集」が業務内容の一項目として提示されたことを受け、今一度、地域課題をしっかりと把握し、市民によるコミュニティ活動や事業として取り組めるテーマを見極めながら、よりニーズに沿った団体創出支援を行うため、本調査を実施するに至りました。

神戸市人口が約150万人であることを考えると、調査数は決して十分ではなく、網羅的とは言えません。しかしながら、ここに寄せられた声には、多くの「困りごと」や「こんなサービスがあったら助かる」という切実な想いが込められています。この調査結果を受け、CS神戸では市内の各拠点にて相談対応時に活用するとともに、「夕食付き子どもの居場所」をテーマとした団体の創出支援に着手する予定ですが(本文参照)、一法人のみで取り組めることには限界があり、すべての課題に対応することはできません。

だからこそ、可能な限り多くの方にこれらの声を届け、それぞれの持ち場でご活用いただくべく、調査結果を取りまとめ、公開することとなりました。ご回答いただいた団体・個人の皆様に感謝申し上げますとともに、この報告書が、地域課題の解決へ向けた一助となることを願っています。

認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

1. 調査概要

(1)目的

①対人支援によるケア領域(高齢者、障がい者、子ども・子育て・ひきこもり、外国人支援分野等)において、表層化しにくい地域課題を把握し、中間支援としてよりニーズに沿った団体創出支援を行うこと、②調査結果を広く情報提供し、施策立案や起業に向けた計画立案の場面等で活用いただくことの2点を目的に、本調査を実施した。

(2)期間

2023年5月23日～6月20日

(3)対象

【団体】神戸市内で対人支援を行うNPO等の非営利法人および任意団体 155団体

【個人】神戸市在住・在勤の個人 85名

(4)手法

【団体】メールにて依頼し、Googleformsにて回答・集約

【個人】CS神戸の市内5拠点における講座参加者やスペース利用者へのよびかけ及び法人HPやメールニュースにて協力を依頼し、Googleformsにて回答・集約

(5)調査項目

【団体】

- ① 基本情報(団体名/代表者名/住所/活動エリア/活動概要/頻度/利用者数など)
- ② 地域課題(支援対象者が困っていること、必要と感じるサービスなど)
- ③ 今後取り組みたいことを行う上での課題

※アンケート詳細項目については <https://forms.gle/KBmSmKuz79V2Vqay8> を参照



【個人】

- ① 基本情報(性別/年代/居住区/職業/家族構成など)
- ② 地域課題(自分・家族・近所の人などが困っていること、必要と感じるサービスなど)

※アンケート詳細項目については <https://forms.gle/SQ857D33xVJNkV9v9> を参照



以上の調査項目から、今回の目的に合わせ、団体・個人ともに「②地域課題」を中心に本報告書にまとめた。

(6)回答数と属性

【団体】 155団体中、71団体から回答を得た（回答率45,8%）。所在区・活動分野は以下のとおり。なお、活動分野は複数回答可とした。

所在区	団体数		活動分野(複数回答可)				
	送付数	回答数	①高齢者	②障がい者	③子ども・子育て・青少年	④外国人	⑤その他
東灘区	28	17	9	12	9	5	1
灘区	22	11	4	5	3	1	0
中央区	22	10	4	5	7	5	2
兵庫区	14	6	1	2	3	1	0
北区	11	5	3	3	4	2	0
長田区	14	4	3	2	2	2	1
須磨区	10	4	2	2	3	1	0
垂水区	21	8	3	2	6	1	0
西区	13	5	1	3	4	0	0
市外	0	1	0	1	1	0	1
合計	155	71	30	37	42	18	5

【個人】 合計85名から回答を得た。属性については以下のとおり。

①性別

性別	回答数	比率
男性	36	42.4%
女性	49	57.6%
合計	85	

②年代

年代	回答数	比率
10代	0	0.0%
20代	2	2.4%
30代	5	5.9%
40代	18	21.2%
50代	9	10.6%
60代	23	27.1%
70代	25	29.4%
80代	3	3.5%
90代	0	0.0%
合計	85	

③居住区

住所	回答数	比率
東灘区	15	17.6%
灘区	22	25.9%
中央区	7	8.2%
兵庫区	4	4.7%
北区	2	2.4%
長田区	5	5.9%
須磨区	5	5.9%
垂水区	12	14.1%
西区	7	8.2%
神戸市外	6	7.1%
合計	85	

(7)実施体制

実施主体： 認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

協 力： 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 川本健太郎研究室

※兵庫県「地域しごとサポートセンター神戸」補助事業の一環として実施

2. 調査結果

(1) 分野・項目別集計

- ・【団体】71団体、【個人】85名から得た回答について、その内容に応じて「分野別」(5分野:①～⑤)、「項目別」(17項目:a.～q.)に分類したところ計196件の意見となった。
- ・個別意見(196件)の一覧については、「調査結果詳細」(10～18ページ)のとおり。

項目	分野					項目計	項目内順位
	①高齢者	②障がい者	③子ども・子育て・青少年	④外国人	⑤その他		
a.居場所・交流	14	9	13	6	3	45	1位
b.移動・外出・送迎	11	7	2		2	22	2位
c.家事	10	1	3		1	15	5位
d.食事	1		10			11	6位
e.ICT・スマホ	7					7	9位
f.見守り・安否確認	4		1			5	13位
g.家族支援・相談・情報	3	4	9			16	4位
h.住宅支援	1	3		2		6	12位
i.一時・長期の預かり		2	5			7	9位
j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり			9			9	7位
k.病児保育・病児サポート			5			5	13位
l.言語関係				9		9	7位
m.進学・就職				4		4	16位
n.地域の担い手					7	7	9位
o.地域活性化					5	5	13位
p.物価対策					3	3	17位
q.その他	7	4	4		5	20	3位
分野計	58	30	61	21	26	196	
分野内順位	2位	3位	1位	5位	4位		

(2) 全体の傾向

- ・「分野別」では、「③子ども・子育て・青少年」が61件で最も多く、続いて「①高齢者」が58件となり、他の分野に比べて多くなっている。
- ・「項目別」では、全分野において意見のあった「a.居場所・交流」が45件と特出して多く、あらゆる層において気軽に集まって話ができる場所に対するニーズがあった。また、対象を限定せず、年齢や障害特性などを超えた多様な人との交流の場を欲する意見も複数見られた。
- ・次に多かった項目が「b.移動・外出・送迎」で、4つの分野で22件の意見があった。高齢者の買い物や病院への移動手段に関する問題、障がい者・児の通勤・通学において移動支援サービスが使いにくい問題など、切実な意見が多数見られた。また、公共交通の不便な地

域における交通手段の確保に関する意見もあった。

- ・全体的には、行政や市場におけるサービス拡充を期待する意見もある一方で、多様な人と交流できる居場所や日常生活の支援など、市民によるコミュニティ活動や事業として改善が期待できる課題も多く見られた。

(3)分野ごとの特徴

① 高齢者

- ・9項目で58件の意見があり、項目別では「a.居場所・交流」14件、「b.移動・外出・送迎」11件、「c.家事」10件の順に意見が多かった。
- ・「a.居場所・交流」では、一人暮らしの高齢者が気軽に話をできる場所の必要性に関する意見が複数あった。
- ・「b.移動・外出・送迎」では、買物や病院等への外出へのサポートが必要という意見が複数あった。
- ・「c.家事」では、ゴミ出し、部屋の片づけ、重たい荷物の移動、動植物の世話などの日常生活の不自由に対する切実な意見が多かった。また、スーパーのセルフレジの使い方がわからずレジが怖いという意見もあった。
- ・「e.ICT・スマホ」に関する意見が7件あり、スマホやインターネットの使用方法や契約に関する支援や、デジタル技術を活用した交流に関する意見があった。
- ・「f.見守り・安否確認」では、一人暮らしの高齢者の安否確認に関する意見が複数あった。
- ・「g.家族支援・相談・情報」では、老々介護問題に関する意見等があった。
- ・「q.その他」の意見の中では、介護施設ではボランティアスタッフが身体に接触しての介護ができないという意見があった。

② 障がい者

- ・7項目で30件の意見があり、項目別では、「a.居場所・交流」9件、「b.移動・外出・送迎」7件、「g.家族支援・相談・情報」4件の順となった。
- ・「a.居場所・交流」では、障がいの有無にかかわらず多様な人と関われる場所や、18歳以降の障がい者の夕方の居場所が必要という意見などが特徴的だった。
- ・「b.移動・外出・送迎」では、通勤・通学への支援の拡充に関する意見が多かった。
- ・「g.家族支援・相談・情報」「i.一時・長期の預かり」では、障がいを持つ子どもの親の就労支援や放課後等デイサービスの長期休み中の時間延長を希望する意見が特徴的だった。
- ・「h.住宅支援」では、親亡き後でも子どもが安心して暮らせるグループホームの設置を望む意見等があった。
- ・「q.その他」の意見の中では、障がいを持つ触法者が障害福祉を断られるケースも多々あるため、更生して再出発する機会を提供することが重要との意見があった。

③ 子ども・子育て・青少年

- ・10項目で61件の意見があり、項目別では、「a.居場所・交流」13件、「d.食事」10件、「g.家族支援・相談・情報」「j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり」9件の順に意見が多かった。
- ・「a.居場所・交流」では、子どもの居場所だけでなく、子育て中の親同士の交流に対する意見が複数あった。
- ・「d.食事」では、夕食付きの学童など、特に共働き世帯における子どもの夕食に対する切実な提案が多数あった。
- ・「j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり」では、フリースクールに通う家庭への物心両面での支援に対する提言や、発達グレーゾーンの子を持つ親が制度や社会資源につながらず、より孤立しているといった意見などがあつた。
- ・「k.病児保育・病児サポート」では、病児保育の予約が取れず困っている共働き世帯からの意見が複数あつた。
- ・「q.その他」では、支援を受けていた母子家庭が、たまたま相続で見かけ上の所得が増えた結果、児童手当等がなくなり保育料が上がって困っているという意見や、ひきこもり当事者が自立するための家計相談や役所等の手続き同行が必要などの意見があつた。

④ 外国人

- ・4項目で21件の意見があり、項目別では、「l.言語関係」9件、「a.居場所・交流」6件、「m.進学・就職」4件の順に意見が多かった。
- ・「a.居場所・交流」では、日本人との交流促進に関する意見が複数あつた。
- ・「l.言語関係」では、公共施設や食品等において外国語表示が少ないことに対する意見があつた。また就学児童を対象とした言語関係の支援施策はあるものの、乳幼児・未就学児を持つ外国ルーツの親を対象とした言語のサポートが少ないという意見もあつた。
- ・「m.進学・就職」では、留学生の就労支援に対する意見が複数あつた。

⑤ その他

- ・他の4分野に分類できない意見を「⑤その他」に分類し、7項目で26件の意見があつた。項目別では、「n.地域の担い手」7件、「o.地域活性化」「q.その他」5件の順に意見が多かった。
- ・「b.移動・外出・送迎」では、徒歩での移動が難しいエリアでのバスのダイヤ等に関する意見があつた。
- ・「n.地域の担い手」では、高齢化により自治会や地域活動団体などの担い手が少なくなつてきていることに対する意見が複数あつた。
- ・「o.地域活性化」では、空き家対策に対する意見等があつた。
- ・「p.物価対策」では、物価高騰への対応に関する意見が複数あつた。

3. 調査結果を受けてCS神戸が取り組むこと

(1) 市内5拠点における相談現場での活用

CS 神戸は年間約1200名の相談に対応し、相談・講座・活動トライアルなどの伴走支援を通じて、毎年約50グループ、約600名の新規活動者を輩出している。NPO やコミュニティビジネスの場合、地域課題の的確な把握が重要なポイントのひとつであり、このポイントを外すと、独りよがりの事業展開になりかねない。そのため、各拠点の相談現場において、これらニーズを念頭に置いた起業や運営のサポートを心掛けるとともに、相談者にも本報告書を提供し、積極的な活用を勧めたい。

また「18歳以上の障がい者の 15 時以降の居場所が必要」というニーズに関しては(13 ページ参照)、CS神戸の拠点のひとつである「地域共生拠点・あすパーク(灘区大和公園内)」にて、毎週金曜日 16 時～18 時に、18 歳以上の障がい者を対象とした居場所「ゆんたく」を実験的に開始している。

(2) 「夕食付き子どもの居場所」の立ち上げ支援

最も回答数が多かった「③子ども・子育て・青少年」分野において、ニーズが高い「a.居場所・交流(分野内1位)」と「d.食事(分野内2位)」を組み合わせ、また食事の中でも要望が多数あった「夕食」に着目し、新たに「夕食付き子どもの居場所」の立ち上げ支援を行う。

具体的には、神戸市東灘区青木地域にて子どもや高齢者の支援を行っている任意団体「りんごハウス」と連携し、2023 年 11 月より、当該テーマに関心のある市民を対象に担い手養成講座を実施する。夕食付き子どもの居場所の意義や事例研究等の座学のほか、仲間づくり、企画づくりのためのワークショップを行い、講座終了後の活動トライアルを経て、2024 年 3 月の事業開始を目指す。実施後は、有効性や課題を継続して検証し、必要に応じて他地域での立ち上げ支援も検討する。

<スケジュール(予定)>

2023 年 9 月～10 月	担い手養成講座の企画、準備、広報
2023年11月～2024年1月	担い手養成講座の実施、4日・8コマ+実習
2024年2月	プログラム内容や実施体制の検討・調整、利用者募集
2024年3月～	グループ立ち上げ、夕食付き子どもの居場所事業の開始

※担い手養成講座詳細

<https://www.cs-wallaby.com/uploads/ninaite2023.pdf>



4. 考察

神戸学院大学総合リハビリテーション学部

准教授 川本 健太郎

○本調査の位置付け

CS神戸は、社会活動への参加促進や団体支援をはじめ、新たな市民活動を創出することを使命とした民設民営の中間支援組織である。

本調査では、生活者視点を持つ市民(個人)とケアの提供者(団体)の双方にアンケート調査を実施し、ケア領域に関するニーズについて、概ねの傾向を掴みながら、CS神戸として取り組むべき課題を選定し、活動支援及び新たな活動団体を創出するためのプログラム開発を行うことに主眼を置いている。

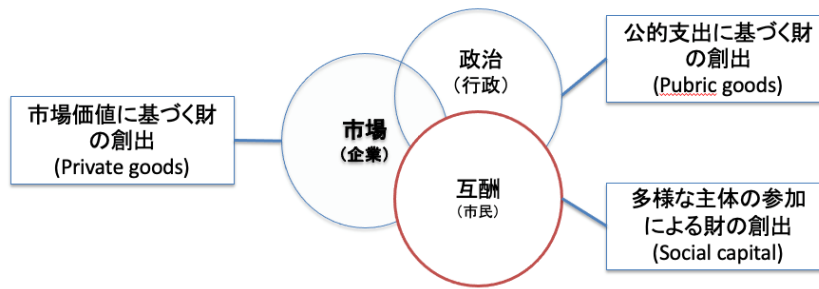
○結果を選定する基準

支援団体の創出を目的としたプログラム開発を念頭に置き本調査の結果を分析していく上では、まずは、「情報の非対称性」の観点から回答(ニーズ)と既存のサービスや制度などの資源の有無や有用性についての現況を確認することが必要である。

「情報の非対称性」とは、提供者サイドの有する情報と受益者側が認知している情報に差が生じている、もしくは、制度やサービスなどの資源はあるが認知されていないなどの状況のことを指す。個人も団体も、回答者が「知らない」状況も想定されるため、新たな資源開発に対するニーズとしてではなく、情報提供体制とアクセシビリティの課題として捉える必要がある事項も含まれていることに留意する必要がある。

次に、一次データ(「調査結果詳細」を参照)については、回答の多次元性が確認できた。例えば、各領域で最も多かった「居場所・交流」に対するニーズは、日常の中で「誰かと会話がしたい」「夕食付きの子どもの居場所」という次元から、障害者の18歳以降の居場所の必要性については、現行の福祉制度の弊害と言ったように課題関心の幅が広い。また、高齢者ケアの領域では、スマホの機能やコミュニケーションロボットなど、企業のサービスや商品開発に関わる市場領域への期待なども含まれている。

これらは、いずれもニーズとして捉えるべきだが、全てを市民活動の領域で先んじて提供すべきサービスや財というわけではない。つまりは、各回答(ニーズ)に応じるべき主体については、政治(行政)・市場(企業)・互酬(市民)の3つの原理から適した主体を見極めることも重要である。この3つの原理は互いに交差し合うものであることを前提にしながらも(次頁参照)、市民活動は基本的に市民参加に基づく互酬性を原理とするものであり、市場や政治の補完や代替的な役割を担うことを前提としない。極端な例を挙げると、貧困を理由にした子どもの栄養不足や障害などを理由にした教育機会の損失や制約などは、生存権や学習を受ける権利を脅かす権利侵害であり、まず先に政治(行政)が役割を果たすべきであろう。この点を市民活動が責任を負うことは公共縮小の議論に拍車をかけることにもなる。政治(行政)の役割をしっかりと議論した上で、市民ないし市民活動団体の役割は何かを見極めることも重要な検討事項である。



筆者作成

○プログラムへの応用と今後の課題について

互酬の原理に基づく活動は、金銭的な動機付けではなく、共感や協力を通じた社会関係の形成による組織化や協働のマネジメントのあり方が問われるものである。

「3. 調査結果を受けてCS神戸が取り組むこと」については、3つのプログラムが提示されている。まず、5つの拠点における現在の相談事業において、本調査結果を積極的に公開することが挙げられている。調査結果の開示は、回答数の多寡に焦点を合わせるものではない。たとえ一つの回答であってもニーズとして取り扱う姿勢は、一定の市場規模を必要とする企業論理とは異なる非営利組織の使命であり存在意義であると言える。

次に「18歳以上の障害者の居場所」については既に実験的な開設・運営を試みている。この先駆的な本事業の取り組みを通して社会的意義に対する説明力を養い、また、開設・運営上の課題や困難な点を明らかにすることで波及するための方法論を鍛えることができ得る。

3つ目の「夕食付きの子ども居場所」の開発については、事業化を目的とした学習の場を企画している。既存の市民活動団体を媒介の場として、新たな個人や団体が集い、実際の事業運営に関するノウハウを提供するとともに、サポートネットワークの形成に資するプログラムになることが期待できる。

○最後に

調査結果に対するCS神戸の応答方法は、「つなげる・ひろげる・つくる」の三段階があると考えている。既存のサービスがある場合、人やもの、情報などを結びつなげる、ないし結び直しをすること、また、既存のサービスや制度の利用制約に対しては、対象範囲の拡充や運用の柔軟化を図ること(ひろげる)で対応しうる事項もある。それでも対応できないニーズに対しては、資源開発(つくること)が求められることになる。そして、これらは、ニーズの性格、問題や課題の性格に応じて、政治・市場・互酬の3つの観点から適切な主体がイニシアティブをとりニーズの充足が図られることが望ましい。

以上を踏まえて、今回、「3. 調査結果を受けてCS神戸が取り組むこと」は、顕在化したニーズの一端に応じることになる。ただし、重要なのは、調査結果の一部のニーズに回答を示すことで終始することではない。

例えば、居場所・交流の機会などを要望する背景にある孤独や孤立などの複雑な社会的課題をどのように捉え、問題の根元にアプローチしていくことができるのか。居場所の運営や組織化が、夕食の提供など個人の要求に応じるだけにとどまらず、社会的な課題を共有した市民同士の繋がりが育まれる場として、また、市民をはじめ専門職や行政など多様な主体が集い協働関係を築くことのできる媒介の場として機能し得るようにいかに支えていけるのか。複雑かつ困難なハードルであるが、神戸の市民社会の土壌を耕してきたCS神戸のこれまでの歩みと今後を捉えた戦略、そして、アクションに引き続き注目していきたい。

調査結果詳細

	分野	項目	意見内容
1	①高齢者	a.居場所・交流	地域に「じいちゃん・ばあちゃんの家」があれば、買い物中の乳幼児の預かりや、じいちゃん・ばあちゃんの交流スペース、放課後の宿題をする場所など、ほっこりとした時間を過ごすことができる。
2	①高齢者	a.居場所・交流	高齢の人が話し相手がなくて、さびしいと言っておられる。
3	①高齢者	a.居場所・交流	民生委員で高齢者宅を訪問してお声をかけているが、外出を億劫がって出てこない。
4	①高齢者	a.居場所・交流	居場所的な誰でも気軽に集まれるスペースを低価格で利用できる取り組み。
5	①高齢者	a.居場所・交流	月に1回行っている居場所活動に新しい人が来ず、スタッフ間の連携がうまくいかないのもうやめたいとも思ってしまう。意思疎通や話し合いがちゃんとできるような手助けが欲しい。
6	①高齢者	a.居場所・交流	一人暮らしの高齢者が一緒に食べたり料理したりする機会の創出。
7	①高齢者	a.居場所・交流	60歳以上の生きがい居場所の必要性。ほっと野外で休むところもないように思う。
8	①高齢者	a.居場所・交流	役に立つ情報が取得できる場所。
9	①高齢者	a.居場所・交流	高齢者の居場所づくりについては、引きこもりの高齢者が多く存在し、地域福祉センターへのアクセスが難しいという課題がある。
10	①高齢者	a.居場所・交流	困ったことを相談できない方が多いので、気軽に話せる場や機会を作って欲しい。
11	①高齢者	a.居場所・交流	高齢者、特に男性高齢者の居場所づくり。
12	①高齢者	b.移動・外出・送迎	近距離の娯楽目的の外出の付き添い。団体の生活支援サービスは1～2時間なので、4～5時間になると空いている人がいない。
13	①高齢者	b.移動・外出・送迎	免許証を返納しようと考えているが、買い物とかが不便になる。コミュニティバスがあれば助かる。
14	①高齢者	b.移動・外出・送迎	高齢になり、近々自動車の免許を返上予定だが、買い物、医院の受診などが困難になりそう。
15	①高齢者	b.移動・外出・送迎	自分で買い物するための移動のサポート。
16	①高齢者	b.移動・外出・送迎	高齢の親が病院に行く手段のハードルが高い。
17	①高齢者	b.移動・外出・送迎	高齢の方が気軽に使えるタクシーのような乗車サービスがあれば良いと思う。
18	①高齢者	b.移動・外出・送迎	北区は神戸電鉄があるが、運賃が高く、公共交通機関も一部が削減されている。特に北神エリアでは、マイカーを持たない人や高齢者の移動が非常に不便であり、通院や買い物が困難。また、北神で高齢者がボランティア活動をしたいと思っても、移動手段が不便。たとえば、高齢者施設への訪問ができない状況。
19	①高齢者	c.家事	ゴミ出し、買い物代行等介護保険外での生活サポートが必要だと感じる。
20	①高齢者	c.家事	毎日犬の散歩をしてくれる人が欲しい。
21	①高齢者	c.家事	高齢者への食事や家事のフォローが出来る体制づくり。
22	①高齢者	c.家事	階下への重たい荷物の移動など依頼すると出張代合わせて1万円以上かかった。1時間前分払、30分以内で終わったのに返金がなく残念。出来ないことは依頼したいが、高額なサービスは頼みづらい。
23	①高齢者	c.家事	高齢者の方と一緒に買い物に行くサービスがあればボランティア等で参加したい。
24	①高齢者	c.家事	部屋の片づけ方(すぐ散らかる)教えてほしい。
25	①高齢者	d.食事	買い物に行けず、ヘルパーさんは毎日来てくれないので、毎日の食事に困っている。(お弁当はあきる)

	分野	項目	意見内容
26	①高齢者	e.ICT・スマホ	高齢者がリモートで知人と面会、会話できるサービス。
27	①高齢者	e.ICT・スマホ	おしゃべりロボットの貸出。
28	①高齢者	e.ICT・スマホ	入院時に外部と交流するためのスマホ利用サポート。
29	①高齢者	e.ICT・スマホ	スマホなどデジタル機器の使い方がよくわからず、トラブルが生じている。
30	①高齢者	e.ICT・スマホ	スマホやインターネットを契約する際のサポート。(変なプラン契約させられてたりする)
31	①高齢者	e.ICT・スマホ	高齢者はWi-Fiや携帯料金についての知識が不足している。また、スマホを使わないと生活が困難になっているにもかかわらず、多くの高齢者がスマホの操作に慣れていない。公的機関がスマホ講座を開いているが、理解しにくいと、個人の講師に有料で頼む人が増えている。助成金を受けている企業が無駄な講座を提供しているのではないかと疑われるほど。結果として、高齢者が自分の財布からお金を出してスマホ学習に取り組んでいる状況に疑問を感じる。
32	①高齢者	f.見守り・安否確認	自分から困っていることなど声を上げられない方への支援。
33	①高齢者	f.見守り・安否確認	1人暮らしのため、親族に連絡してくれる等の安否確認が受けられるサービス。
34	①高齢者	f.見守り・安否確認	高齢者の見守り。
35	①高齢者	f.見守り・安否確認	1人住まいの方が多くなったので、近所の方との付き合い方を現代的に変えていく必要があると感じる。例えば、電話回線を利用して安否確認をするなど。
36	①高齢者	g.家族支援・相談・情報	高齢夫婦二人きりの生活で近くに頼れる身内がおらず、妻が病気で看護・介護が必要となった際の手助け(家での見守り、通院付き添い、買い物など)が必要。
37	①高齢者	g.家族支援・相談・情報	家庭介護の介護者がコロナなど伝染病に罹患した時、施設のデイサービス・ショートステイ共に拒否される。病病介護で悲惨な状況にならないように介護者を守るサービスがあればと思う。
38	①高齢者	q.その他	耳が遠くなり、乱視が進んで、転倒のリスクが高まっている。
39	①高齢者	q.その他	高齢者の医療費も子どもの医療費のように無料にしたり安くしてもらいたい。
40	①高齢者	q.その他	高齢の母は難病を患っているが、意欲的に生活し、家事もほとんど自分でこなしている。しかし、介護認定は受けられず、転倒や手術のリスクがあるため、緊急時のケアに備えて認定を受けたいと思っている。自立心と意欲がある高齢者が介護認定を受けられないのは、制度の問題ではないかと考える。
41	①高齢者	q.その他	経済的に困りの方の中には、利用料金が払えずサービス利用を見合わせる方もいる。助成なしの自費事業として行う以上、一定の料金はいただかなければならず、本当にお困りの方に支援が行えないのは心苦しい。
42	①高齢者	a.居場所・交流	プライドの高い認知症になりかけた方への対応。お出かけ先紹介ができれば。
43	①高齢者	a.居場所・交流	日ごろの愚痴・悩み・ストレスのもとなど近所では話せないことを気軽に話せる場。
44	①高齢者	a.居場所・交流	高齢者の居場所づくりに取り組んでおり、ご近所や家族とは異なる中距離の関係の重要性を実感している。人によって居心地の良さは異なるので、多様な主催者からの提案ができると良いと感じている。
45	①高齢者	b.移動・外出・送迎	デイサービス利用者以外でも、外出支援のマイクロバスを利用できれば参加したい人もいる。雨の日には転倒の心配があり、外出が不安な人もある。コロナ禍で外出できずに体力が衰えた高齢者が多くいる。同様に、引きこもりの人が人との関わりを始めたいと思えるような取り組みも必要。

	分野	項目	意見内容
46	①高齢者	b.移動・外出・送迎	通院等の送迎サービス。
47	①高齢者	b.移動・外出・送迎	商店街の中を重い荷物を持って歩くのはしんどい方の為に、商店街の通路だけ、無料カート(ゴルフカートのよ様なイメージ)で送迎支援する。
48	①高齢者	b.移動・外出・送迎	老々介護とひきこもりの問題(高齢者は足が痛いので、行くのは行けるが帰りが心配)
49	①高齢者	c.家事	買物や大掃除の代行サービス。
50	①高齢者	c.家事	急に独居になり、花の世話ができずに枯れてしまったので、鉢植えを植え替える手助けが欲しい。
51	①高齢者	c.家事	シアアの買い物セルフレジなので操作ができず買い物に躊躇してしまう。レジが怖い。(買い物回数が減った。覚えられない自分が認知症になったかとドキドキする)なんでもスピードを要求されシニア時間を設けてほしい。
52	①高齢者	c.家事	北区大沢町では高齢化が進み、一般的な生活や畑・森林の管理、空き家などに関して課題が増えている。特に、85歳以上の高齢者が自家用車で買い物に行く必要がないようなサービスが必要。地域の高齢者の買い物を見守りながらサポートする販売カーなどのサービスがあると良いと考える。
53	①高齢者	e.ICT・スマホ	スマホ、パソコンを使いこなせないで、安心できる人に教えてもらいたい。ネット注文も不安で、いろいろな案内連絡が来るが詐欺も多く「ぼち」と押しそうになるが誘導されそうで怖い。気軽に聞きたい。
54	①高齢者	g.家族支援・相談・情報	ショートステイはレスパイト(介護者側が限界を超え介護不能となることを予防)の意味もあるが、高齢者が退院後に自宅で療養する際にも、もっと柔軟に受け入れてくれる施設が増えてほしい。
55	①高齢者	h.住宅支援	単身高齢者向けの安い住宅問題。
56	①高齢者	q.その他	介護施設の職員が少ないが、ボランティアでは誘導などの身体介護ができない。
57	①高齢者	q.その他	自費サービスの充実。
58	①高齢者	q.その他	(ダンベル体操等の取組み)もう少し回数が増えれば良いと思う。
59	②障がい者	a.居場所・交流	障がい者を持った子どもは特別な存在ではなく、身近な存在であってほしい。そのためには知ること、関わることも必要。
60	②障がい者	a.居場所・交流	身体障がいの子どもの、1種2級の障がい者手帳を持っている。児童発達支援事業では、知的な支援が充実している一方、身体障がいの子どもの支援が不足していると感じる。特に、身体を動かしたり遊べる場所がほとんどなく、障がい者スポーツセンターの親子教室に通っているが、他にはほとんど選択肢がない。また、スポーツセンターでは預けることができないため、親の負担も大きくなっている。
61	②障がい者	a.居場所・交流	聴覚障害のある人への配慮が少なく、地域での人づきあいがしにくい。
62	②障がい者	a.居場所・交流	作業所に通っている人の生の声を聞き取り、ひろいあげるサービス。
63	②障がい者	b.移動・外出・送迎	視覚が不自由な方が点字ブロックを必要な時にちゃんと使えるような仕掛け。(アート×点字ブロックの面白い取り組みを見つけたので神戸でもやりたい)
64	②障がい者	b.移動・外出・送迎	単身世帯で子供が障害児であり、学校までの送り迎えが毎日大変な状況。学校の送迎バスがないために通学が困難であり、移動支援も利用できないため行政支援を受けることができない。
65	②障がい者	b.移動・外出・送迎	視覚障がい者の通学往路援助。
66	②障がい者	g.家族支援・相談・情報	障がい者の親御さんのネットワークづくり。同年代以外の様々な年代の悩み事を話して相談できる場が必要。

	分野	項目	意見内容
67	②障がい者	g.家族支援・相談・情報	障害を持つ小さなお子さんの親御さん(特に母親)の就労支援。
68	②障がい者	i.一時・長期の預かり	放課後デイサービスは利用しているが、長期休暇中の預け入れ時間が朝遅くて短いため、フルタイムで働いている親としては預けることが難しく、困っているので、放課後デイサービスの長期休暇中の時間拡大を求めたい。
69	②障がい者	q.その他	障がいをもつ触法者の方々は、罪状(性犯罪、殺人、放火など)によって障害福祉サービスを断られることがしばしばある。触法者の方々が新たな人生を築くためには、再出発の機会を与え、更生への支援を行うことが非常に重要であり、社会全体の安全や福祉につながる。
70	②障がい者	q.その他	不眠についての相談を受けることが多く、睡眠薬によるもの以外の睡眠についての相談ができる場や勉強会があればと思う。
71	②障がい者	a.居場所・交流	現在、地域活動支援センター(多機能型)は市内8か所ある。潜在的ニーズを鑑み同センターの増設認定及び事業運営補助金の増額をはかることにより、ひきこもりがちな障がい者のニーズ対応が必要。
72	②障がい者	a.居場所・交流	障がい者福祉サービスは制度として充実しているように見えるが、障がい者を制度の枠にはめ込むことで健常者との接する機会が減っている。共生社会の実現のためには、障がい者や健常者、子どもと高齢者と分けるではなく一緒に過ごし、価値を共有する取り組みが必要。
73	②障がい者	a.居場所・交流	耳の遠い人も集いやすい工夫のある居場所。
74	②障がい者	a.居場所・交流	18歳以上のお子さんの場合は15時以降。18歳迄の場合は放課後等デイサービスがあり15時以降、土日祝も預け先があるが18歳になると15時に障害のある子が帰宅してしまうため、親は家に居なければならぬ。18歳以降の子供の居場所が必要。
75	②障がい者	a.居場所・交流	気軽に誰でも立ち寄れる居心地いい居場所。対象者の方にちょっとお話ししようとする場所があればいいなどと思う。
76	②障がい者	b.移動・外出・送迎	移動支援の活用(通勤通学に使えないなど制約がある)
77	②障がい者	b.移動・外出・送迎	ガイドヘルパーは学校及び職場から家への往復には使えない。
78	②障がい者	b.移動・外出・送迎	障害者の方の通勤、通学の送迎。
79	②障がい者	b.移動・外出・送迎	現在は自社の福祉車両を使用し重度の障害児の通所送迎しているが、将来的には外部の移送サービスと提携し、負担を軽減するとともに地域の障害者の通所を支援したいと考えている。この取り組みにより、同じ時間帯と方向に送迎を行う「くるくるバス」のようなサービスが実現し、職員の送迎業務時間を減らし、他の業務に集中できるようになる。現在試行実施中。
80	②障がい者	c.家事	親亡き後の緊急介入の仕組み(食料を買いに行けない、ゴミ出しできない本人に代わって、それらの家事等を行う)。
81	②障がい者	g.家族支援・相談・情報	障がい者について、ほぼ制度内の事業を行っているが、そこに繋がっていないご本人や家族へのフォローが充分にあることが必要。
82	②障がい者	g.家族支援・相談・情報	(障がい者)お子さんが学生の場合は進路。学校以外で進路相談ができる場所があれば。
83	②障がい者	h.住宅支援	障がいを持つ方が、親亡き後も安心して充実した日々が送れるように、療育活動を取り入れた施設(グループホームなど)があればと思う。
84	②障がい者	h.住宅支援	事業所(就労B事業)の近隣にグループホームを設置。
85	②障がい者	h.住宅支援	親と子どもが共に暮せる場所。
86	②障がい者	i.一時・長期の預かり	重度障害者の急なニーズに応えられる、ショートステイや送迎サービス及び入所先。
87	②障がい者	q.その他	一緒に競技(陸上・卓球・競泳・スキー・スケート・フライングディスク)を楽しんで貰えるボランティアの紹介または募集活動へのサポート。
88	②障がい者	q.その他	障がい者のひきこもり、障がい者への理解不足

	分野	項目	意見内容
89	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	核家族が多く、孤独なお母さんや子ども達が本当に多い。その人たちがもっと社会や地域と気軽に関われる場所があると、母親の負担も減らし、子どもの成長にもつながる。
90	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	小学校高学年～高校生がお金がなくても屋内で気軽に遊びに行ける場所(雨天時でも公園のように集える・体を動かせる場所)
91	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	・共働き世代の子どもの居場所(学童以外の時間) ・垂水区の商業施設BRANCHでの一時保育 ・多世代の居場所
92	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	子ども達の選択肢というのは親の余裕からできるものであり、時間や金銭的な問題や孤立をなくし、共に子どもを育てるコミュニティが出来ればと思っている。
93	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	子供の居場所作りの場所を増加希望。遊べる場所であったり、静かに勉強も出来るような。
94	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	低料金、新長田近辺で通える集団塾があればと思います。
95	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	子どもたちが気軽に遊べてのんびりできるような自然公園または広場が欲しい。
96	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	既存のサービスになじめない子供や大人が自分らしくいられる場所が必要。対人関係に苦しんでいる当事者に向けて学びの場を提供したい。
97	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	朝学校前の居場所。学校の門が開いていない時間から登校して待っている児童がいる。
98	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	ひきこもり・若者も来れて地域の人も来れるようなゆったりした集う場作り。
99	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	話し相手のいない親が困りごとや愚痴を言える場所が必要。子供相手に話すわけにもいかず、身近な人にも言うことができない内容なので、聞いてくれる人がおらず心が爆発しそうなママに会うことがあり、切なくなる。悩み相談ではなく、単に「大人と話す」時間が必要であり、今はお米の配達時になるべく話を聞くようにしている。
100	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	子供たちには居場所が欲しいし、話したいこともある。コロナ前のようにはいかなくても、集まって話せる場所が必要。
101	③子ども・子育て・青少年	a.居場所・交流	気軽に喋れるママ同士の繋がりが必要。
102	③子ども・子育て・青少年	b.移動・外出・送迎	母親が体調を崩し、父親も仕事ですぐに動けない時などに、子供を幼稚園や保育園に送り迎えしてくれるサポートがあれば助かる。
103	③子ども・子育て・青少年	b.移動・外出・送迎	仕事で帰りが遅くなると、子どものこども園のお迎え時間に間に合わせるのが大変。時にはタクシーを使うことも。誰かに迎えに行ってもらえたらありがたい。
104	③子ども・子育て・青少年	c.家事	子育て世帯へのサポート(保育所送迎、家事援助など)
105	③子ども・子育て・青少年	c.家事	子どもを連れて買い物に行くのが大変。
106	③子ども・子育て・青少年	c.家事	大型ごみを出したり家の片付けをしたりする時に、人手がほしい。
107	③子ども・子育て・青少年	d.食事	晩御飯の献立、お弁当の作り置き等毎日大変なのでレシピと必要な材料と一緒に手に入れることができれば。
108	③子ども・子育て・青少年	d.食事	仕事をしていて帰りが遅いので、だれか子どもに晩御飯を食べさせてほしい。
109	③子ども・子育て・青少年	d.食事	仕事をしていて帰りが遅いので、だれか子どもに晩御飯を食べさせてほしい。
110	③子ども・子育て・青少年	d.食事	仕事をしていて帰りが遅いので、だれか子どもの面倒を見てほしい。
111	③子ども・子育て・青少年	d.食事	疲れて夕ごはんの用意がしんどいとき、食事の用意をしてもらえたりするサービスや気軽に食べに行ける食堂がほしい。
112	③子ども・子育て・青少年	d.食事	一番支援が必要な劣悪の状況にいるお子さんは、子供食堂にさえ来ることができず、行こうとしても、保護者に止められたり、怒られたりする状況にあるので、例えば誰でも持っていったいいような菓子パンを外に置くなどこっそりどこかで食べられるようなサービスも必要。

	分野	項目	意見内容
113	③子ども・子育て・青少年	d.食事	食事つき学童保育。
114	③子ども・子育て・青少年	d.食事	夕食つきの学童、家政婦志麻さんのような夕食準備しておいてくれるようなサービス。
115	③子ども・子育て・青少年	d.食事	お金を持って来れる子どもばかりではないので、困った時の無料で利用できる、「お助けチケット」サービス。
116	③子ども・子育て・青少年	d.食事	食料品などの支援を長期に受けたいが期限を設けられ困った。(シングルマザーの方)
117	③子ども・子育て・青少年	f.見守り・安否確認	第2子が生まれたあとの上の子の保育所送迎や遊び相手、共働き世帯の下校後の自宅での留守番の見守り。
118	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	子どもの発達について土日祝含め日常的に”専門家に”相談できる場所(機会)
119	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	適切な療育と環境調整のサポートを行い、困っている家族が連続的に相談できる場所。
120	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	灘区の子育て支援情報についてSNSのみになり、紙でまとめたものがなくなったので情報のある場所がわかりにくくなった。
121	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	保護者に向けた取り組み(交流の場、相談場所など)
122	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	離婚が成立しておらず養育費がもらえていないひとり親家庭の場合、書類上ひとり親ではないので、保育園にも預けられない。
123	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	親の発達障がいによる子どもの養育能力不足への支援。
124	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	赤ちゃんを子育て中のママ達は、子どもの遊び場や子育てについての情報を求めている。
125	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	子育ての悩み相談と解決策。
126	③子ども・子育て・青少年	g.家族支援・相談・情報	家庭事情が複雑な家庭の支援が必要。
127	③子ども・子育て・青少年	i.一時・長期の預かり	夏休み、パートの間の子供達をみてくれる人が居ないので子供の預け場所が欲しい。
128	③子ども・子育て・青少年	i.一時・長期の預かり	単発で働く保護者や用事等でこどもの預け先がない保護者が増えているので、一時預かりや一時保育などのサービスやスペースを増やしてほしい。
129	③子ども・子育て・青少年	i.一時・長期の預かり	一時保育ではなく、気軽に短時間、こどもを見てもらえるサービス、例えば、買い物や美容室へ行っている間など。
130	③子ども・子育て・青少年	i.一時・長期の預かり	夏休みや春休みなど長期休みの子供の生活。
131	③子ども・子育て・青少年	i.一時・長期の預かり	保育園の一時預かりがあるが、連れて行く時間や手間がかかるため、ちょっと病院に行く間、美容院や買い物の間の小一時間～二時間程度の預かりをしてくれる一時預かりサービス。
132	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	もともと地域との交流を避ける傾向のあるひきこもりの成人が、地域団体が行う居場所・イベントの場を設けても参加してこない問題に苦労している。思い切ってそのようなイベントにお手伝いの形で参加を試みるも長続きしない。
133	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	不登校の保護者の相談相手。
134	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	ひとり親家庭で、子供が不登校の場合、こどもに対するサポートや支援を親がする余裕がなく、より孤立化する方が多い。長く引きこもっていると、こども自身がこども食堂へいこうという気分にもならないので、なかなか難しい。
135	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	フリースクールへ通うのに行政の補助がなく、家庭の経済的負担が大きい。

	分野	項目	意見内容
136	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	フリースクールに通う子どもの仕事体験を受け入れる事業所がコロナ後に見つからない。
137	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	不登校の子どもが増えているが、子どもが不登校になると家庭の経済的負担が増え親も疲弊し地域とコミュニティも取れなくなり孤立化する。親だけでなくフリースクール等の運営負担も増えているので、資金面で支える公助が必要。
138	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	発達障害のグレーゾーンと呼ばれる不登校で手帳を持たない子ども達の学び場や居場所が必要。
139	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	保育現場で発達グレーゾーンの子供が増えており、専門知識を持つスタッフ不足しているため、限界が生じている。当団体でも同様の問題があり、専門家でないために子供のサポートに限界があり、結果的に親子は退所し、困難な状況が残った。そうした子供たちを受け入れる場所や、発達グレーゾーンの子供を持つ母親が気軽に相談や情報交換できる場所が必要。
140	③子ども・子育て・青少年	j.発達グレーゾーン・不登校・ひきこもり	不登校の子どもと親を支える活動。
141	③子ども・子育て・青少年	k.病児保育・病児サポート	病児保育の予約が取りにくい。仕事のやりくりに困る。
142	③子ども・子育て・青少年	k.病児保育・病児サポート	保育所に預けている子供が体調不良の時に保育所に迎えに来てほしいと言われるが、迎えに行った後に親が仕事から離れることができるまで子供を預かってくれる場所。
143	③子ども・子育て・青少年	k.病児保育・病児サポート	子供が病氣した時に、病児保育がいっぱい結局仕事に行けず。病児保育難民をどうにかして支援できる制度を考えてほしい。シングルにとって2日休むだけでも死活問題。
144	③子ども・子育て・青少年	k.病児保育・病児サポート	子どもの通院が仕事と調整つかないときに付き添うまたはオンラインで診療してくれる
145	③子ども・子育て・青少年	k.病児保育・病児サポート	病児保育の充実。
146	③子ども・子育て・青少年	q.その他	障がい者福祉サービスや事業所との連携ができると嬉しい。
147	③子ども・子育て・青少年	q.その他	母子家庭だが、去年相続があり所得額が増えたため、保育園料が66,000円になった。相続はお金だけでないのに、所得に含まれてしまい、毎月生活が厳しい。働いている意味がわからず、保育園料でほとんど消えてしまう。所得制限に引っかかり、児童手当や児童扶養手当ももらえないので辛すぎる。
148	③子ども・子育て・青少年	q.その他	小学校時代から「大人になったら何になりたいか」を聞き過ぎることが、不登校増加の原因と考える。子供たちはなりたいものを持っておらず、「まだ決められない自分が悪い」と思い込んでいる。将来の自分について、職業選択ではなく、自分がどんな状態でありたいかを問うべき。
149	③子ども・子育て・青少年	q.その他	ひきこもりご本人・ご家族向けの訪問支援活動(傾聴ボランティアレベルから訪問心理療法レベルまでのカウンセリング活動、役所や銀行の手続きの同行支援等)や、家計相談(ひきこもり本人が生き延びていくために、具体的にどれだけ稼げばOkなのかを算出する)
150	④外国人	a.居場所・交流	仕事や結婚などで神戸に移住してきた、母国或いは郷里の近い人同士知り合える場があれば共通の話題で楽しめる場となり、孤立を防げる対策になると思う。
151	④外国人	a.居場所・交流	日本語習得、日本人との仲間作り。
152	④外国人	a.居場所・交流	外国の人に日本の(日常生活)文化を教える場所(特に災害時の対応など)。

	分野	項目	意見内容
153	④外国人	a.居場所・交流	地域内の若者(学生等)や外国人と交流ができるような場の提供が必要。
154	④外国人	l.言語関係	公共施設での外国語対応が少ない。あっても予約が必要など利用者にはとても不便。
155	④外国人	l.言語関係	外国人のための文字表記が少ない。
156	④外国人	l.言語関係	外国人のための食品の外国語表示が少ない。「NaviLens」というサービスが一つ可能性を持っていると思う。
157	④外国人	l.言語関係	確定申告や行政からの各種案内などの翻訳サービス。
158	④外国人	l.言語関係	スマホやインターネットを契約する際のサポート(変なプラン契約させられてたりする)
159	④外国人	m.進学・就職	留学生へのIT教育(力仕事だけでなくIT仕事の可能性も広げて欲しい)
160	④外国人	a.居場所・交流	日本人の友人ができない。
161	④外国人	a.居場所・交流	日本語学校によって他校の学生と自分の学校の学生が知り合いになることを嫌がることもある。学校にしか知り合いがないという留学生もいる。
162	④外国人	h.住宅支援	外国人留学生の住居確保のために、外国人留学生向け安価なシェア賃貸サービス。
163	④外国人	h.住宅支援	外国人のための住宅政策。
164	④外国人	l.言語関係	翻訳機の無料または安価での貸し出し。
165	④外国人	l.言語関係	保健所の行う乳幼児健康診査や、保育園など未就学児関連の事業において「ことばの壁」「文化の壁」に悩む場合が多い。例えば同じ保健所で「結核健診」などではすでに通訳が行政で予算化されており、就学児童のためには多文化こどもサポーター事業があるが、乳幼児、未就学児をもつ親を対象とした言葉のサポートはなく、本人の家族、知人・友人などの善意による対応に頼っている。
166	④外国人	l.言語関係	子どもの日本語支援。
167	④外国人	l.言語関係	精神的な問題を抱えるメンバーや相談者たちが母国語でみてもらえるところ(クリニック、病院等)があれば。
168	④外国人	m.進学・就職	外国人の就労支援。
169	④外国人	m.進学・就職	外国人留学生と外国人を採用したい企業のマッチング。
170	④外国人	m.進学・就職	外国ルーツの青年の進学資金援助。
171	⑤その他	a.居場所・交流	働きにくさや生きにくさを話せる場が欲しい。「つらい時に自分はこうして乗り切っている」とお互い言える場があれば。
172	⑤その他	a.居場所・交流	課題や趣味が自由にできる場所がほしい。
173	⑤その他	a.居場所・交流	地域交流事業。
174	⑤その他	b.移動・外出・送迎	市営バス運行で始発が遅く終発が早い。山側居住地で徒歩移動が困難なので、サービス時間を拡充して欲しい。
175	⑤その他	c.家事	辺地などところに住んでおられる方のゴミ出しはボランティアが見つからない。
176	⑤その他	n.地域の担い手	高齢化が進み、地域社会の様々な活動の担い手が少なくなっている。特に面倒くさい世話役的なことをうまく引き受けてもらえるような方法はないものかと考えている。
177	⑤その他	n.地域の担い手	高齢化の進行により、自治会活動ができなくなり、役員当番の負担から脱退する人が増えている。なぜこのような状況になっているのか、そして良い対策は何かについて検討する必要がある。

	分野	項目	意見内容
178	⑤その他	n.地域の担い手	ゴミ出し日にネットをかたずける順番が回ってくるが、それが分かるのは3日くらい前。自治会の問題であるが一番困っている。
179	⑤その他	n.地域の担い手	地域で子ども達を育てること重要性・価値が若い子育て世代は認識しておらず自治意識の後退が急速化している。自治会長として、若い世代に自治会のぞんざい意義を知ってもらえるように頑張っている。
180	⑤その他	n.地域の担い手	これまで地域活動を支えてきた地域活動団体の高齢化の進展で、近い将来地域活動の担い手が少なくなっていくと思われる。地域を支える担い手(若い世代)づくりが必要(特に行政が施策レベルで検討が必要)
181	⑤その他	n.地域の担い手	近隣地域の自治的組織が無い。あるいは希薄な場所、地域もあり、住民相互間のコンタクトが取れない、取りにくい現状もある。どういう自治組織の在り方が良いのか、机上ではなく現実に即した対応が必要で、自治体の上から目線ではなく、現場の視点でボトムupできる体制が必要。体制の構築に向けて、草の根的な組織の立ち上げ、人材の発掘・育成ができるような環境を用意できれば良いと思う。
182	⑤その他	n.地域の担い手	人口減少による人材不足の中で、他団体と協力して行うコミュニティが少ない。
183	⑤その他	o.地域活性化	地域のための地域による地域活性化(スポーツ、習い事、文化的なものの指導者紹介)。地域を活性化させるには、その地域の多年齢、多職種、多目的なことを伝えたり、指導する必要がある。
184	⑤その他	o.地域活性化	ご近所どおしの日常のコミュニケーションの取り方、支え合いのしくみ。
185	⑤その他	o.地域活性化	高齢者だけでなく、あらゆる世代で周りとながれず孤独を感じている人がいる。
186	⑤その他	o.地域活性化	北区は坂道が多く、遊ぶ場所や集い場が少ない。あるのかもしれないが、つながりがないように思える。
187	⑤その他	o.地域活性化	空き家が増えるのに、ほとんど活用されていないことに危機感を感じる。もっとハードルを低くして、活用できるようにしてほしい。使いたい場所が多くある。
188	⑤その他	p.物価対策	節約のために自炊するがスーパーで食材を買っていると使いきれず破棄することが多く、総菜や宅配に頼っているが、割高になり悩んでいる。
189	⑤その他	p.物価対策	年寄夫婦だけでなく娘孫との生活で、生活費が高くなり暮らしにくくなっている。
190	⑤その他	q.その他	週末・夜間の相談対応。
191	⑤その他	q.その他	自分自身の経験から、車イス、松葉杖の体験を通して、骨折の予防等、子供だけではなく高齢の方に講演をやりたいと思っているが、それを実施するにあたり、場所、告知の場、ボランティア募集の場、等の課題が山積み。
192	⑤その他	q.その他	ボランティアで参加している団体(スペシャルオリンピックス日本・兵庫)では、日常のスポーツトレーニング(14種目)の指導ができるボランティアが恒常的に不足している。
193	⑤その他	q.その他	世代的に非正規雇用や無職の人が多く。将来とても大きな問題になると思う(8050問題)。社会保障の確保も大事だが、社会参加を促し、地域で把握していけるようによいと思う。
194	⑤その他	b.移動・外出・送迎	六アイではタクシーを拾えないし呼んでも来ない。(アプリでも来ない)
195	⑤その他	p.物価対策	生産地域(丹波篠山・南あわじ)と消費地域(神戸市内)との交流が多く、車利用が多いので、ガソリン代、車のレンタル料など限定した助成とか割引引き制度がほしい。
196	⑤その他	q.その他	不用品交換システム。

■地域課題の現状把握についてのアンケート調査 ワーキングチーム

CS 神戸 事務局長 / 地域しごとサポートセンター神戸 センター長	飛田 敦子
CS 神戸・地域しごとサポートセンター神戸 副センター長	上畑 みのり
CS 神戸・地域しごとサポートセンター神戸 専門相談員	中道 眞
CS 神戸・地域しごとサポートセンター神戸 専門相談員	村井 拓人

■アドバイザー

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 准教授	川本 健太郎
--------------------------	--------

地域課題の現状把握についてのアンケート調査 報告書

2023年9月発行

編集・発行 認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS 神戸)

連絡先 〒658-0052
神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104
TEL 078-841-0310 FAX 078-841-0312
Mail: office@cskobe.com

※本報告書は兵庫県「地域しごとサポートセンター神戸」補助事業の一環で作成しました